

読めば欲しくなる!?

# フェラーリは人生を変えるぞ!



## 池沢早人師

(漫画家)



## 清水草一

(モータージャーナリスト)

言わずと知れたフェラーリマニアのご両名。  
“フェラーリ教”の教祖として  
啓蒙活動に励む清水さんに今があるのは、  
“サーキットの狼”でおなじみの池沢先生のお陰とか。  
フェラーリに手を出すと、  
やっぱり人生変わるようです。



**清水:**先生、ご無沙汰しています! 430の調子はいかがですか?

**池沢:**うーん、乗るのは月1~2回だけど、毎回ドキドキするよ。

**清水:**こんなにアドレナリンが出るクルマは、フェラーリだけですよね。

**池沢:**そうだね。乗っていて気持ちいい。清水君は今もモデナ?

**清水:**はい、もう4年半近くになります。

**池沢:**今回は長いね~。

**清水:**おかげさまで。ところで、先生が初めて買われたフェラーリはディーノでしたよね。

**池沢:**1975年だったかな。当時、ロータス・ヨーロッパに乗っていたけど、そのクラブの仲間が買っ

たんだ。あまり見せびらかすから、羨ましくなってそれを譲ってもらって。

**清水:**でも、半年ほどで手放された。

**池沢:**乗ったのはせいぜい10回かな。何度もツーリングの途中で止まってね。それで精神的につらくなって手放したけど、今でもディーノは最高の恋人だったと思ってるよ。

**清水:**絶世の美少女ですからね……。ボクは編集者時代に、先生のテストロッサを運転させていただいたのが、人生初のフェラーリです。高貴でありながら、こんなワルなものがこの世にあったのかと。あれで人生変わりました。

**池沢:**ウチの近所を、ちょっと走ったんだよね。

**清水:**そうです。でも実は子供の頃は、ボクの

まわりではスーパーカーブームって盛り上がってなかったんですよ。だから事前の思い入れはゼロだった。クルマは好きだけど、フェラーリは別次元の存在で興味が湧かなかったんですね。だからかえって、価値観が根底から覆えるほどインパクトはすごかった。

**池沢:**あまり飛ばさなかったんだよね?

**清水:**30km/hくらいで充分シビれましたね。これはボクの知っている「クルマ」という機械じゃない、まったく違うものだった。

**池沢:**そう、フェラーリの良さは乗らないと分からない。

**清水:**だから、今はボクも自分のフェラーリにたくさんの人を乗せてあげたいんです。保険がエコノ



ミーなので自爆されると困るのが玉にキズなんですけど……(笑)。

**池沢:**モータージャーナリストでありながら、フェラーリの広報マンというカンジだね。

**清水:**先生は、スーパーカーゼンぶの広報マンですね。テストの後は、348ですね。

**池沢:**キダスペシャルのマフラーを付けたやつ。あの音は最高だった。チャレンジレースに出かけたけど、周囲に反対されて。で、売ったの。

**清水:**とにかく先生は、V8フェラーリはほとんど乗ってらっしゃいますよね。

**池沢:**うん。308、328、348、355は2台かな。それから360で、今は430。

**清水:**まさに総ナメだ!

**池沢:**うん。80年代からずっと乗っているからね。V8はホントいいね。決定的なのが355。音もいいし、パフォーマンスもいい。ここ最近、サラリーマンのオーナーも増えてきたね。

**清水:**そうですね。多くなりました。数居が下がったカンジ。ボクが348を買った頃は、金額もそうですが、精神的な壁が大きかったです。

**池沢:**当時は、サラリーマンが1000万円払ってフェラーリを買うなんて、誰にも理解してもらえなかった時代だよ。

**清水:**フェラーリは遅い、壊れるって評判でしたから。でも、「フェラーリに乗るまでは死ねない」という思いが強かったです。

**池沢:**すごい決意だ。でも、思ったほど壊れない

でしょ? それにフェラーリは値落ちしないんだよ。ボクは今までに70台位のクルマに乗ったけど、フェラーリがいちばん損しなかった。

**清水:**ボクが348を買ったのは、バブル崩壊の途中の頃。今と比べるとちょっと高い時でした。でも今は、世界一値落ちしないクルマですね。

**池沢:**とはいえ、値上がり期待して買うなんてのは最低だ。結果的に損しなかった、というならいいけど(笑)。

**清水:**そうですね。ダメですね。先生はレース経験が豊富だからかもしれませんが、ちゃんと走るフェラーリを好みますよね。

**池沢:**そうかな?

**清水:**ボクは最初が348というせいもあるんでしょ



池沢さんと清水さんの付き合いはもう20年になる。作家と編集者としての出会いなど、思い出にも花が咲いた。左の黒い360モデナは清水さんの愛車。すでに買い手は決まっているらしく、今はコンディションのよい328を探している段階という。

初めてフェラーリを手にしたのは池沢さんが25歳。清水さんは31歳。若いうちにぜひ、と口を揃えた。対談は世田谷のイタラ専門中古車店「コレツィオーネ」で行なわれた。右は同店に展示中のJLMCレースカー「550GT1」。取材協力=コレツィオーネ世田谷店 Tel. 03-5758-7007

うが、ダメなフェラーリに惹かれるんです。

**池沢**：惚れた女と同じだ(笑)。ダメなところがあるけど、かえってそこがかわいく見える。

**清水**：今のモデナも4年半乗ってますが、やっぱりいろいろいじっています。やっとできあがったというか、ようやくやるどころがなくなった。

**池沢**：けっこう時間がかかったね。

**清水**：どこがいけないかわからないから、試行錯誤しているうちに時間が経ってしまって……。でも、おかしなもので、できたらできたで、気持ちが離れちゃうですよ。



清水草一 一モータージャーナリスト。庶民的視点によるフェラーリ関連の著書多数。いっぽうで渋滞問題など交通インフラに対しても造詣が深い。大手出版社勤務時代に池沢さんの担当となり、フェラーリに出逢うことになった。

**池沢**：うん、わかるわかる。

**清水**：だから、今度は328に乗り換えます。

**池沢**：へえ？。先祖返りしちゃうんだ。

**清水**：速くないことはわかっていますが、スピードは麻薬ですからね。キリがない。だから次は癒し系のフェラーリに乗ってみようかなと。

**池沢**：それもいいよね。

**清水**：ボルシェと違って、最新のフェラーリが最高のフェラーリというわけじゃないですからね。先生がV8を選ぶ理由というのは？

**池沢**：直線を走るより、コーナーが好きなんだ。だからボクにはV8が合ってる。ミッドシップだし、ボディのサイズもちょうどいいしね。

**清水**：やはり「サーキットの狼」世代だと、ミッドシップですよ。

**池沢**：もはやパフォーマンスとしてはV12を超えていると思うな。

**清水**：V12はフラッグシップではあるけれども、大きくて重くなりましたよね。

**池沢**：最近のモデルはラグジュアリーというか、GTカーというか……。

**清水**：普通の人にとってフェラーリは人生を賭けて買うクルマだけど、FRのV12モ

デルは人生を賭けるクルマかという、ちょっと違う気がします。

**池沢**：そうだね。ダンナ仕様というか、乗るのはもっと歳を食ってからでいい。

**清水**：やっぱりミッドシップのV8フェラーリが最高ですね。ほとんど故障もしないし。

**池沢**：そうだね。

**清水**：よっぽどの粗悪品をつかまされない限り、あまりお金がかからない。

**池沢**：最初に買うフェラーリとしては、355がおススメかな。昔からのフェラーリ・テイストがデザインに生きているし、サイズもいい。

**清水**：360も素晴らしいクルマですよ。なんたって、安いですから。430と比べてお値段は半分。シャシーが不安定な分、加速感はハンパじゃない。おトクです。

**池沢**：アハハハハ。

### アレコレ考えてはいけない

**清水**：いずれにしても、フェラーリは世界最高のクルマだから、憧れないのは変！ 借金してでもフェラーリを買ってほしいですね。

**池沢**：値落ちだって少ないしね。一生に一度は

イタリア美女に乗ってほしいな。

**清水**：アドレナリンが全開になって、「こいつとなら死んでもいい」と思えるクルマなんて他にない。たとえローンが払えなくて手放すことになったとしても、一度手にしておけば男として満足でしょう。後悔のない老後を送れる。いっそ国民全員に買ってほしいですね。

**池沢**：そんなにある？

**清水**：フェラーリは日本に8500台くらいしかありません。みんなが買う前に買え！ですね。

**池沢**：そしてもうひとつ。できれば、フェラーリの良さは若い頃に知ってほしいな。

**清水**：歳をとると、人はパワーが落ちますからね。フェラーリのパワーに対抗できなくなる。

**池沢**：40、50歳になると老後を考えるでしょう。家のローンも終わってないし、クルマどころじゃない。だけど20代、30代ならローンが組めるし、もし手放すとしても悔いはないはず。

**清水**：ボクはフェラーリを頂点と思っていますが、頂点を知ることで世の中の見方が変わりますよね。欲しいなら、買わないのはおかしい！

**池沢**：国産車をいじっている場合じゃないよね。

**清水**：こんなにリスクの少ないクルマはフェラーリ

の他にはないです。それから、知り合いも増えますよね。フェラーリに乗っているというだけで、池沢先生のようなビッグな方のお仲間にもなれたり。

**池沢**：それはある意味、スーパーカーのオプション。フェラーリに乗っているだけで、普段は出会えないような人たちと知り合いになれるからね。

**清水**：こんなにチカラのあるものは、他にないでしょう。たとえ豪邸を持っていても、「豪邸仲間」ってのはないですから(笑)。男の勲章というか、フェラーリには、一步踏み込んだ人にしかわからない世界が待っています。

**池沢**：根性があるやつだと認めてもらえるよね。

**清水**：迷っている人がいたら、すぐに買ってほしい。パーツが手に入りづらいからとか、みんな最悪のことをいろいろ考えすぎ。

**池沢**：よく「トラブルとか大丈夫ですか？」って聞かれるけど、そんなに心配なら、ボルシェでも買っておきなさい、って。

**清水**：実際にはたいして壊れないんだけど、ある程度リスクを背負うという覚悟は必要ですよ。

**池沢**：フェラーリに乗っている人は行動力

があるし、パワフルというか、エネルギーがある。だから、一步踏み出せる。そういう人たち。

**清水**：それがいい人は、フェラーリに乗らないほうがいいのかも。だいいち似合わないですよ。

**池沢**：一步踏み出すことで、同じ道がまったく違う道に見えるのにな。

**清水**：迷っているヒマがあったら、今すぐ買いなさい！ということですよ。

まとめ：七野秀美 / Photo：五條伴好



池沢卓人 一漫画家。かつてスーパーカーブームのきっかけとなった「サーキットの狼」や「モデナの険」などクルマ関連作品をライフワークとする。BBやテスタロッサ、400ATなど12気筒フェラーリの所有経験も豊富。V8ではF40も！